

## 【がん早期発見・早期治療キャンペーンプロジェクト】

共催：  米国研究製薬工業協会 /  兵庫県健康福祉部健康局疾病対策室

米国研究製薬工業協会（PhRMA）と兵庫県は、がん検診受診率を上げ、兵庫県におけるがん罹患率や死亡率の減少を目指し、がんの早期発見・早期治療におけるがん検診の重要性を訴える啓発活動として、**本年5月30日より「がんの早期発見・早期治療キャンペーンプロジェクト」を実施しています。**中間報告としてプロジェクト活動のレポートを作成しました。 ※趣旨・概要等詳しくは下記WEBサイトにて、4月27日発表のニュースリリースをご覧ください。  
<http://www.phrma-jp.org/archives/newsroom/release/nr2009/090427-1400.php>

これからの社会を担う高校生・大学生（若年層）へ『「がんの予防」「がん検診受診」の必要性』の理解を促進することにより、まずは高校生・大学生自身ががんに対する関心を高め、子（若い世代）から親（周囲のがん年齢の大人たち）に「がん罹患率や死亡率の減少＝予防と検診の必要性」をアピールすることで、直接的な普及啓発を目指しています。

本プロジェクトは、去る5月30日（土）に開催した、「キックオフミーティング」を皮切りに、6月20日（土）、7月18日（土）とほぼ月1回ペースでの検討会を開催し、また、Eメールを通じたメンバー間の意見交換により進行しています。検討会では、学生メンバーによって、がん検診の重要性を訴えるためには、どのような情報が必要かといった意見交換を行っています。また、自らががんを経験している患者さんや、がんを専門とする医師が、支援メンバーとして参加しています。学生メンバーは、自らこのプロジェクトへの参加を志願した、兵庫県在住の高校生・大学生。討議会を重ねるごとに、「がんへの興味が深まった」、「同世代にアピールできるパンフレットを作り上げて行きたい」といった意欲が高まっています。

今後のプロジェクトは、8月24日に第3回討議会を実施、9月26日に第4回討議会を予定しています。

### ◆キックオフミーティング 5月30日実施◆ 参加メンバー15名

初回は、本プロジェクトの趣旨・概要・目的等を参加者間で共有するため「キックオフミーティング」を開催。兵庫県健康福祉部医監の太田稔明氏より兵庫県におけるがん対策について、また、PhRMAの予防委員会委員長エリザベス・J・コブス氏より、プロジェクト支援の意義及び協会の取り組みについて話がありました。

続いて、兵庫県健康福祉部健康局疾病対策室の新井隆浩氏より兵庫県のがん対策戦略として、検診受診率やがん患者の実情等、本プロジェクトの背景の説明があり、プロジェクト概要をPhRMA予防委員会の安部和明氏が説明しました。参加メンバー全員が自らの役割を理解した上で、メンバー同士のコミュニケーションを図るべく、自己紹介ならぬ他己紹介を実施しました。学生、患者会、医療従事者の壁を越え、全メンバーが一丸となり、本プロジェクトは無事にスタートいたしました。

参加した学生メンバーからは、「がんについて学べる良い機会です、自分の周囲に対してがん予防の手助けができる」、「がんやがん検診において兵庫県の現状がわかり勉強になった。もっと学びたい」などの感想も上がっており、参加意識の高い学生が集まっています。

兵庫県健康福祉部医監 太田稔明氏挨拶



兵庫県 新井隆浩氏  
現状説明風景

予防医療委員会委員長  
エリザベス・J・コブス氏挨拶



PhRMA 安部和明氏  
プロジェクトの概要説明



メンバー同士 他己紹介



◆第1回討議会 6月20日実施◆ 参加メンバー18名

初めに「自分たちの会」であることを意識するために「会の名称」をメンバー全員で討議しました。続いて、パンフレットを制作する上での必要情報として、「がんって何？」をテーマに、兵庫県立がんセンターの須藤保先生より「がんはなぜなるのか」や「がんの本質」また「なぜがんが怖いのか」などについてお話いただきました。講義後、パンフレットに盛り込む項目や文章について、メンバー全員で討議しました。「どうやってがんを知るのか」「なぜがんを知っておく必要があるのか」などについて討議し、次回討議会での発表に向け、準備を開始しました。

第1回討議を終えた学生からは、「学んだことを学校で広めていける良い機会なので、次回以降も楽しみ」、「がんについての知識が広がってきた。早期発見や予防の大切さを自分も心掛けたい」などの感想が上がっています。また、サポートメンバーからは「主張し過ぎずアドバイスをするのは難しいが、学生メンバーの発想が大切である」などの感想が上がっています。

キックオフミーティング時より、学生メンバーの発言も増えてきています。



グループ討議の様子



須藤保先生によるレクチャー

◆第2回討議会 7月18日実施◆ 参加メンバー14名

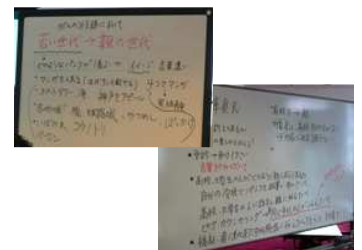
グループによる「がんって何？」の頁案を発表。前回の講義を受け、学生メンバー内で、誰が何をまとめるのかを役割分担し、パワーポイントにまとめて発表しました。補足情報として事務局からパンフレット制作に必要な情報収集法などを示し、その上で「がん検診の重要性を訴えるために、パンフレットに必要なものは何か」について改めて討議しました。

討議は、学生メンバーのみで行い、不明点や課題についてはサポートメンバーに意見を求めました。第2回討議を終えた学生から、「学生だけの討議では、これまで以上に意見を言い合え、非常に実のある討議が出来た」、「自分たちが思うパンフレットを作成するために、より活発に発言していこうと思う」など、これまで以上に前向きな感想が多く聞かれました。

今後も「学生たちで作り出す」ことを重視し、学生たちが訴えたいパンフレットが作れるよう、またキャンペーン活動を展開できるよう、有意義な討議会を実施します。



グループによる討議のまとめ



■学生メンバーのコメント■ ※プロジェクトに応募したきっかけ、また実際にプロジェクトに参加した気持ち及び変化など。

大学生: 安楽死のディベートを経験したことから、がんに興味をもち、プロジェクトに参加してみようと思いました。実際に現場に立っている医師の話を聞いたり、他のメンバー(高校生や大学生)と話し合ったりすることは、とても有意義です。

高校生: 母からプロジェクトを知らされ、また将来「感染症の研究医」を目指している自分にとって、難しいイメージの「がん」を知ることのできる機会と思い参加しました。初めは思った以上に本格的な内容で圧倒されました。しかし会を重ねるごとに緊張もほぐれ、皆で作っていくことが「楽しい」と思えるようになりました。メンバー同士の討議が主体の中、医師によるレクチャーもあり、がんのメカニズムもとても分かり易いです。講義後には新たな考えも浮かび、メンバー間の討議で考えがまとまり、納得した空気になったときが今では一番好きです。今後も会で得た知識を生かし、皆の考えと思いが詰まったパンフレット作りができることを楽しみにしています。

<協力> 患者会: ひょうごがん患者連絡会(中原武志氏、田村美生夫氏)

医療従事者: 兵庫県立がんセンター(里内美弥子先生、須藤保先生、服部剛弘先生)、兵庫医科大学(柳本富士雄先生)、西宮市立中央病院(林典子先生)

兵庫県健康福祉部、米国研究製薬工業協会予防医療委員会

<発行/お問い合わせ> 「がん予防啓発プログラム」コンソーシアム事務局(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-18-1 明海京橋ビル 2F

TEL 03-5159-7750 FAX 03-5159-7760 E-Mail [jc.consortium09@gmail.com](mailto:jc.consortium09@gmail.com)